

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	高橋 正典（9）	<p>1. 本市のデジタル変革宣言下における聴覚障害者への対応について</p> <p>昨年からのコロナ禍によって様々な弊害が生じてきた。市内の各種団体における年次総会も書面による評決が増えてきた。また、各地域の諸行事も異常なほど開催の中止を余儀なくされてきたところである。</p> <p>全国的に見ても関東、関西の主要都市への移動は避けるべきだ。都市圏への通勤も自粛し、在宅で対応するよう企業もそのような体制を取るところが増加してきた。そのような背景の中、本市は令和2年度にSDGs未来都市に選定され、さらにデジタル変革宣言をした。時流に乗った素早い動きと感じたところである。</p> <p>また、現在進めている第六次富士市総合計画においても、今示したSDGsとデジタル変革の推進が肝になっているのである。</p> <p>先に述べたように、企業活動においても、御自身が所属する部署の事務処理を自宅においてリモートで行うようになってきた。いわゆるテレワークである。これまで、そうした企業の活動は近未来的で、いつになったらそのようになるのかと疑問符が打たれてきたが、このコロナ禍において一気に加速、国においては本年9月を目標にデジタル庁が設置されることとなった。</p> <p>また、これまでデジタル化を進めようにもどのような方向に展開するのか手をこまねいていたIT関連企業は、一気に日が当たる時代になってきたのである。</p> <p>本市においても、各部、各課で企画してきた講演会なども、これまでの会場型から、リモートによるオンライン形式での発信が採用されるようになってきた。</p> <p>まさに時代の流れであるが、SDGsの観点から「誰一人取り残さない」という考えに立って、以下質問する。</p> <p>(1) 聴覚に障害がある方が、オンラインを活用した講演を視聴する際、パワーポイントなどを使った講演であれば画像としては理解できるが、音声に伴わないことから手話が必要になってくる。このような場合、どのような対策を取ることができるか。</p> <p>(2) 中途失聴の方の場合、手話より要約筆記を入れた対応をしてもらいたいと思うところであるが、どのような対策を取ることができるか。</p> <p>2. デジタル変革宣言下の上水道のスマートメーター導入について</p> <p>令和元年度、私が所属していた建設水道委員会で、大阪市を視察、水道スマートメーターについて勉強してきたところである。</p> <p>大阪市におけるこの事業については、同年6月に開催されたG20期間中、会場周辺での給水装置を使つての毒物混入な</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
4	高橋 正典（9）	<p>どのテロ行為の防止を目的に、流水方向および停留などを監視する、また、水道管を含む給水設備からの漏水事故の早期発見及び監視する目的もあり、設置されたものである。</p> <p>このスマートメーターの導入により、遠隔操作による検針作業や、高齢者世帯の見守り活動などを行うことができることから、衛生器具からの漏水の発見などにも役立っているという。</p> <p>水道メーターの設置等、投資的経費はかかるものの、デジタル変革宣言をもって水道事業においても導入を進めるべきではないかと思い、以下質問する。</p> <p>(1) 富士駅前の再開発事業において計画される店舗と住宅部分の給水設備の中に、スマートメーターを組み込ませることが考えられるがいかがか。</p> <p>(2) 将来的には、集合住宅や遠隔地へのスマートメーターの導入により検針作業の省力化につながると考えるがいかがか。</p>	市長 及び 担当部長